

2017

近代・現代の表現技法

Modern Expression Technique

AD21 佐藤 孝彦
指導教員 佐久間 善典

1. 研究目的

最近、街中などで見かける広告（ポスター）などではコンピューターグラフィックスを使ったものが多く見かけられる。こういった表現の原型となっている近代的な表現はもとはすべてアナログで作られていたものである。

その表現技法と技術を研究、調査することを今回の研究目的とする。

2. 調査と分析

この研究を始めるにあたり、まず近代の表現技法の種類を調べた。近代表現というものはその多くが軍事やある思想などを人々に伝えるための宣伝広告に多く使われていたことが分かった。このことから近代表現（コラージュ・フロタージュ等）がポスターなどに適した表現技法だということが見て取れる。

- ・コラージュ：キュビズム時代にパブロ・ピカソらのはじめた技法。新聞、布きれなどを絵具以外の物を組み合わせて画面に貼付けることで特殊な効果を持った作品が生み出される。
- ・フロタージュ：シュルレアリスムで用いられる技法。硬貨やマンホールなどの表面がでこぼこした物の上に紙などを置き、鉛筆などで擦りその模様を写し取る。
- ・デカルコマニー：シュルレアリスムの時代に生まれた技法。ガラスや表面が滑らかな紙など、絵具が定着しにくい素材を選んで、その上に絵具を塗り、絵具が乾かないうちに別のガラスなどに押し付け、重ねた素材を外すとそこに模様が出来ている。

3. コンセプトの立案

「デジタル世代」の人へ、アナログでの表現の奥深さ、おもしろさというものを伝える。

伝える為の媒体は広告の中でもポスターに焦点をあてた。現代の世代の人々に伝える為には、現代の世代の人々が使っているデジタル技法も表現として取り込む。

4. デザイン展開

今回の研究で作成するモノでを描いていく上で、デジタル表現に適している人物表現やキャラ

クターの表現は、デジタル表現を使って描き込んでいき、それ以外の背景や、質感を大切にしたいものをアナログで表現とする。

それをコラージュや、フロタージュなどの表現技法を使い、最終的な作品とする。オリジナルのキャラクターを用い、キャラクターデザインなどを学ぶ学校の広告のようなものを作成した。

5. 完成図



6. 結論

アナログ表現と、デジタル表現の共存というのはなかなか難しかった。特に1つ1つのパーツの組み合わせなどが今回大きな壁となった。他にも個人のセンスに大きく左右されるであろう部分が多くあったので、なかなか自分の思うように進まないことが多かった。

完成物は自分が調査した近代表現を多く使うことで、調査、研究した成果を形にできたのではないかと思う。

7. 参考文献

Graphic Design for the 21st Century

出版社: Taschen, 2003

著者: Charlotte Fiell, Peter Fiell, Philippe Safavi
ウィキペディア (Wikipedia)

URL: <http://ja.wikipedia.org/wiki/表現技法>

etc